

広島市長メッセージ

「国分寺市平和祈念式」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

1945年8月6日、人類史上初めて広島に原子爆弾が投下され、街は焦土と化し、多くの人々の命や日常生活が奪われました。そして、心身に悪影響を及ぼす放射線は、今なお被爆者に様々な苦しみを与え続けています。

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の悪化といった厳しい世界情勢により、国家間の疑心暗鬼はますます深まっています。他国より優位に立ち続けるための核戦力を含む軍拡競争が続き、世論においても武力に頼らざるを得ないという考えが強まっていけば、平和な世界の実現は遠のくばかりです。

このような状況だからこそ、市民社会が決意と希望を胸に心をつ一つにして行動を起こし、為政者に政策転換を促すことが重要となります。昨年度、広島平和記念資料館に世界中から過去最多となる226万人を超える人々が訪れたことは、かつてないほど、被爆地広島への関心、平和への意識が高まっている証しとも言えます。ヒロシマの平和への願いの原点は、「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という被爆者の切なる願いです。

争いを生み出す疑心暗鬼を消し去るために、今私たちができることは、音楽や美術、スポーツなどを通じた交流によって他者と経験や価値観を共有、共感し、対話することで、「信頼の輪」を育み、日常生活の中で実感できる「安心の輪」を広めていくことです。そうした意味で、本年も皆様「国分寺市平和祈念式」を開催され、戦没者を追悼するとともに、世界の平和と人類の幸福を希求する決意を新たにされることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

本市は、世界の約8,500の平和首長会議の加盟都市と共に、市民社会の平和意識の醸成に一層取り組み、「平和文化」に満ちた世界を創ることで、核抑止力に依存する為政者に、対話による平和的解決に向けた外交政策への転換を促していきます。皆様には、核兵器の廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

終わりに、「国分寺市平和祈念式」の御成功と御参会の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和7年(2025年)8月15日
広島市長 松井 一 實